

「日限山小学校・南舞岡小学校」 通学区域と学校規模適正化等 検討部会ニュース

第1号

発行日：令和4年10月28日
発行元：「日限山小学校・南舞岡小学校」
通学区域と学校規模適正化等検討部会
(事務局：横浜市教育委員会事務局学校計画課)

第1回検討部会
日時：令和4年9月30日（金）
10時00分から
会場：日限山地域ケアプラザ
多目的ホール1



はじめに

現在、南舞岡小学校は一般学級数が9学級の小規模校であり、今後も小規模校の状態が継続する見込みです。南舞岡小学校の規模適正化に向けて具体的に検討するため、隣接する日限山小学校との間で、「『日限山小学校・南舞岡小学校』通学区域と学校規模適正化等検討部会」を設置し、第1回検討部会を開催しました。今後も、検討部会での検討状況等については、本ニュースを発行し、保護者の皆様や両校の通学区域内にお住まいの皆様にお伝えしていきます。

第1回検討部会の決定事項など

- ・南舞岡小学校の学校規模の適正化に向けた具体的な対応として、事務局から4つの検討事例（通学区域調整をした場合と学校統合をした場合）を示しました。
- ・第2回検討部会では、今回事務局から提示した検討事例を踏まえ、各所属団体のご意見を伺い、具体的な対応を検討することになりました。

1 検討部会の運営

本検討部会は、「『日限山小学校・南舞岡小学校』通学区域と学校規模適正化等検討部会運営要領」に基づき、運営していきます。小規模校対策については、通学区域の変更等について検討し、実施できない場合や実施によっても課題が解消しない場合には、学校統合について検討していくこととなります。

「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会運営要領（抜粋）

（調査審議事項）

第2条 部会は、横浜市学校規模適正化等検討委員会条例第5条第1項の規定により、日限山小学校・南舞岡小学校に関する次の各号に掲げる事項について調査審議することとし、調査審議結果をまとめた意見書を、横浜市学校規模適正化等検討委員会に提出する。

- | | | |
|-----------------------|---------------|---------------|
| (1) 学校規模適正化に関する事 | (2) 学校統合に関する事 | (3) 使用校舎に関する事 |
| (4) 学校名に関する事 | (5) 通学区域に関する事 | (6) 通学安全に関する事 |
| (7) その他教育委員会が必要と認める事項 | | |

（会議）

第5条 部会の会議は、部会長が招集する。ただし、部会長が選出されていないときは、横浜市学校規模適正化等検討委員会委員長が行う。

- 2 部会は、部会委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席した部会委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。
- 4 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）第31条の規定により、会議については、一般に公開するものとする。ただし、部会の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

2 検討部会の構成

横浜市学校規模適正化等検討委員会条例及び上記の運営要領に基づき、検討部会の委員並びに部会長及び副部会長につきましては、次の方々に決まりました（敬称略）。

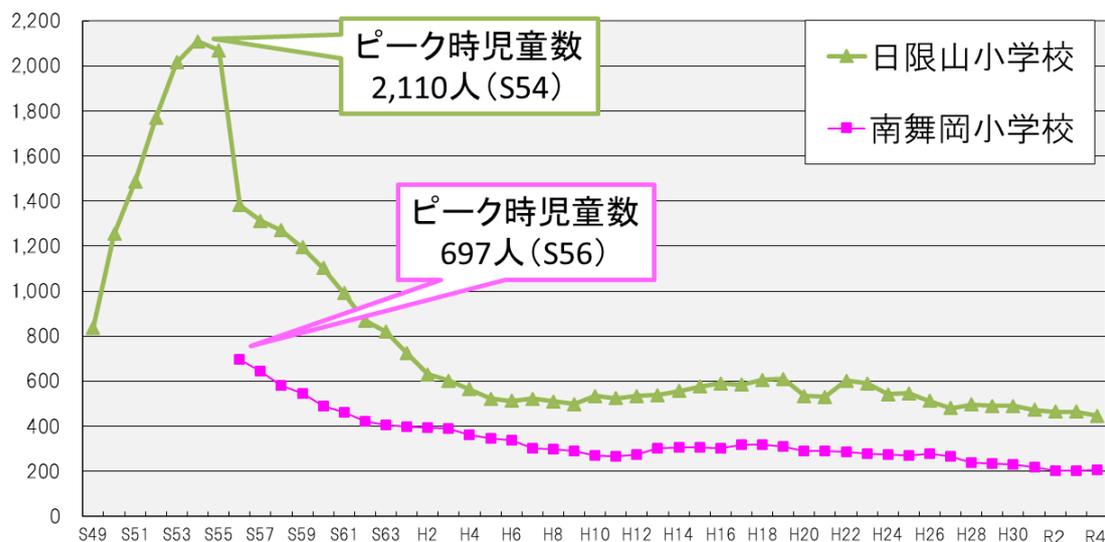
部会長	杉本 功	(舞岡地区連合会 会長)		
副部会長	宮島 由美子	(ひざり連合自治会 会長)		
委員	兵藤 剛士	(日限山自治会 会長)	橋本 ゆり子	(南舞岡小学校 PTA 会長)
	米村 純正	(港南プラザ自治会 会長)	池田 有香	(南舞岡小学校 PTA 副会長)
	松本 昭彦	(西洗自治会 会長)	大北 めぐみ	(日限山中学校 PTA 代表)
	児玉 雅次	(南舞岡自治会 会長)	松浦 典子	(日限山中学校 PTA 代表)
	鈴木 隆行	(舞岡台自治会 会長)	岡崎 陽子	(日限山小学校 校長)
	中野 寿一	(舞岡第三町内会 会長)	地主 佐和子	(南舞岡小学校 校長)
	羽角 梓	(日限山小学校 PTA 会長)	竹山 昭子	(日限山中学校 校長)
	森 幸子	(日限山小学校 PTA 副会長)		

3 日限山小学校と南舞岡小学校の現況

(1) 基礎情報

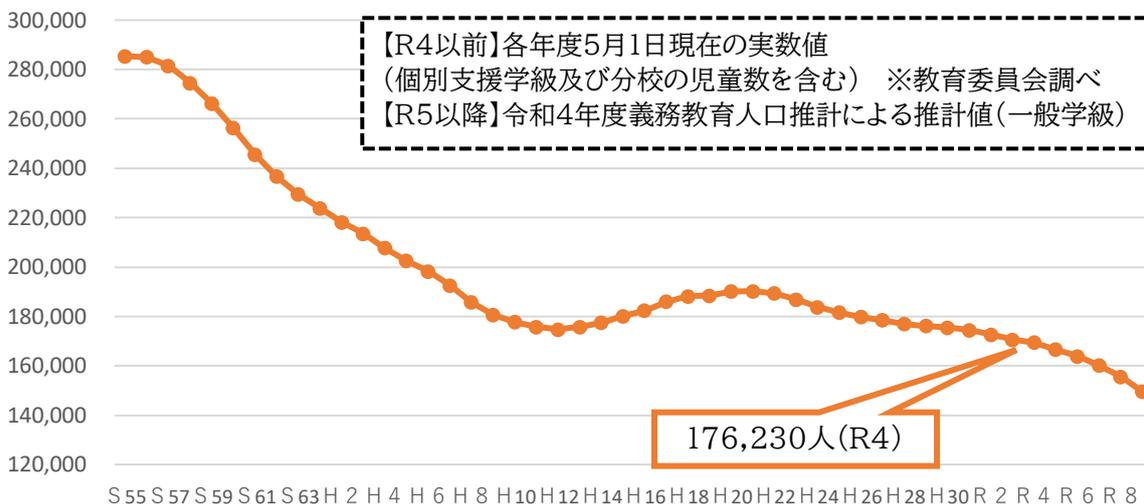
学校名	日限山小学校	南舞岡小学校
開校年	昭和 49 年度	昭和 56 年度
親校	永野小学校・東戸塚小学校	日限山小学校
小中一貫教育推進ブロック	日限山中学校／日限山小学校・南舞岡小学校	

(2) 一般学級児童数の推移



【各年度の5月1日現在の実数値（一般学級のみ）】

【参考】横浜市立小学校・義務教育学校（前期課程）児童数の推移



(3) 今後の児童数・学級数の見込み

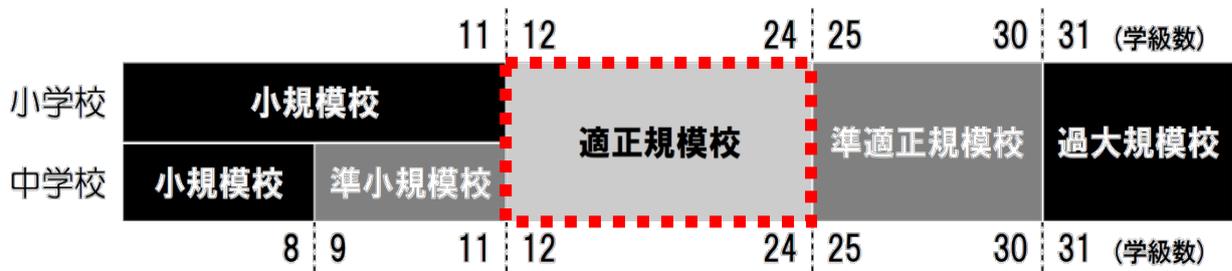
学校名		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	個別支援学級(R4)	普通教室数
日限山小学校	児童数	447	415	404	386	370	353	340	17	19
	学級数	14	13	13	13	12	12	12	3	
南舞岡小学校	児童数	207	198	199	188	204	193	184	27	13
	学級数	9	9	9	9	8	7	6	4	

※R4は令和4年5月1日時点の実数値。R5以降は令和4年度義務教育人口推計による推計値（一般学級のみ）。

4 学校規模適正化について

(1) 適正な学校規模の考え方（「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」より抜粋）

小学校では12～24学級（各学年2～4学級）の学校を「適正規模校」とし、11学級以下を「小規模校」としています。小規模校には小規模校ならではの良さがありますが、課題もあることから、横浜市では、小規模校の課題を解消し、教育環境を改善させるため、学校規模の適正化を推進しています。



(2) 「小規模校」の特徴（「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」より抜粋）

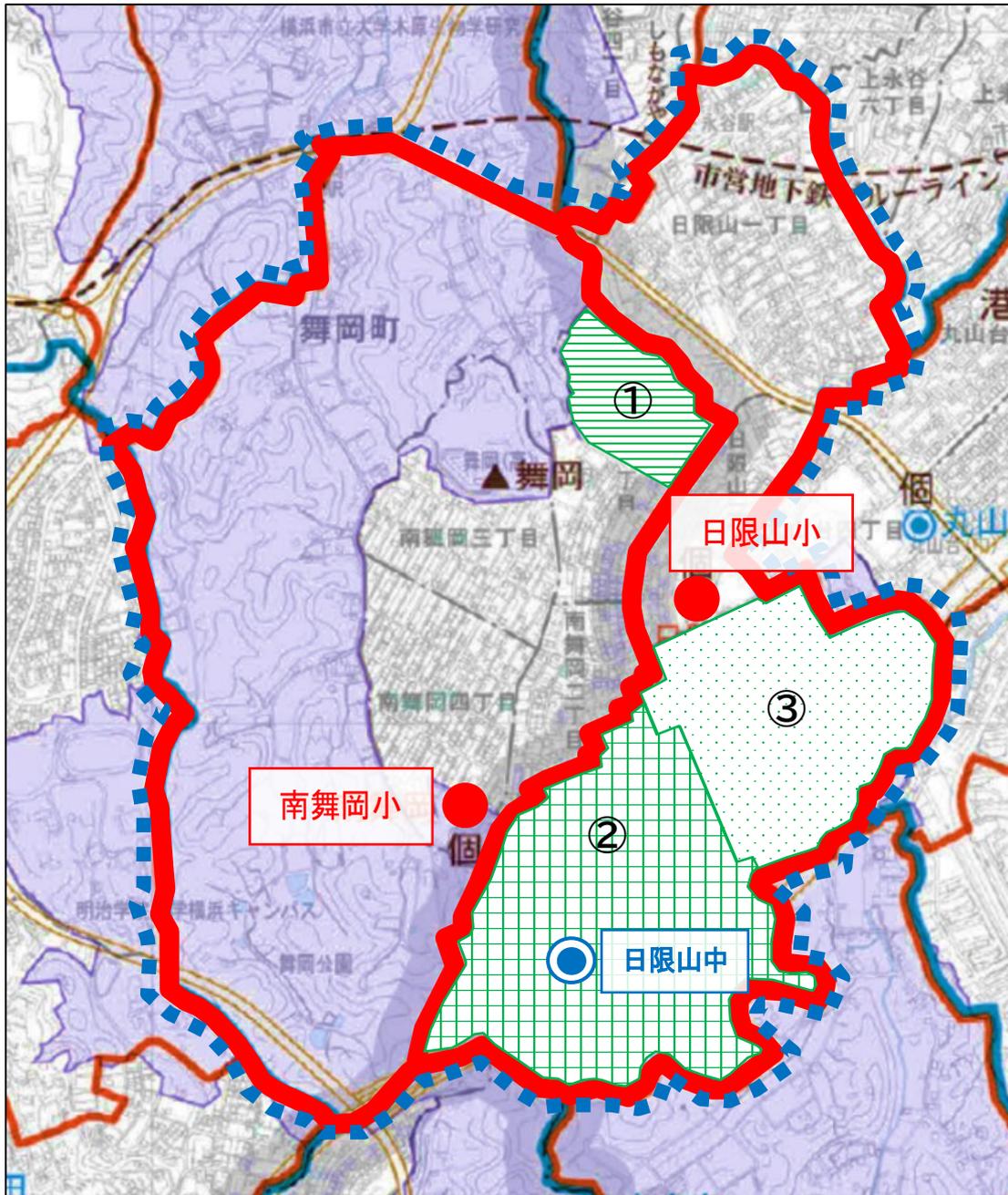
	小規模校の利点	小規模校の課題
児童	<ul style="list-style-type: none"> ◆子ども同士よく知り合うことができ、人間関係が密になる。 ◆縦割り集団行動などで、異なる学年の子ども同士の関係を深められる。 ◆様々な学習活動の場で、それぞれが活躍する機会を持つことができる。 ◆コロナ禍において、運動会や卒業式等のイベントをあまり密になることなく実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆多様な個性と触れ合える機会に恵まれにくく、人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られる恐れがある。 ◆運動会などで一定人数が必要な競技が行いにくくなる。 ◆子ども同士の人間関係が固定化しやすい。
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員が校内の子ども全員をより深く理解し、個に応じた指導を行いやすい。 ◆学校に対する保護者の理解や協力を得やすく、学校全体で主体的な対応が取りやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業内容や児童の指導について相談できる機会が減るなど、特に、経験が浅い教員の負担が大きい。 ◆一人の教員が担当する事務作業が多くなり、学級経営、教科研究などに費やす時間が制約を受ける。
保護者 P T A	<ul style="list-style-type: none"> ◆子ども一人ひとりの実態が把握しやすいため、学校と家庭との連携が取りやすい。 ◆保護者同士のつながりが強く、お互いに協力しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆PTA会員が減少するために、役員が固定化しやすい。 ◆学校行事などの面で、保護者の負担が大きくなる。

5 南舞岡小学校の学校規模適正化に向けた検討事例

通学区域を変更する場合の関係校における学校規模（一般学級児童数、学級数）の推移等を示した3つの検討事例と、日限山小学校と南舞岡小学校を統合する場合の検討事例を事務局から提示しました。

第2回検討部会では、今回事務局から提示した検討事例を踏まえ、各所属団体のご意見を伺い、具体的な対応を協議することになりました。

<検討事例1～3 参考地図>



【凡 例】			
小学校	●	対象区域①	
中学校	◎	対象区域②	
小学校通学区域	—	対象区域③	
中学校通学区域	■		

検討事例1

南舞岡小学校通学区域のうち、南舞岡一丁目(対象区域①)における特別調整通学区域(※)の設定を解除し、日限山小学校を選択することをできなくした場合。

(※) 特別調整通学区域…入学時に指定校と受入校のいずれかを選択することができる制度。

〈児童数・学級数の推移(シミュレーション)〉

※令和6年度の新1年生から対象とした場合

学校		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
日限山小	児童数	447	415	400	380	359	339	321
	学級数	14	13	13	13	12	12	12
南舞岡小	児童数	207	198	203	194	215	206	202
	学級数	<u>9</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>9</u>	<u>9</u>

※R4は令和4年5月1日時点の実数値。R5以降はR4実数値を反映してシミュレーションした数値(一般学級のみ)。
 ※下線部分は小規模校(小学校は一般学級数で11学級以下)となっていることを示す。
 ※検討事例2~4についても同様。

〈効果と課題〉

- ・南舞岡小学校の児童数は増えるが、小規模校の状態は解消されない。

検討事例2

検討事例1に加えて、日限山小学校通学区域のうち、日限山四丁目(西洗自治会)及び上永谷町の一部の地域(対象区域②)を、南舞岡小学校に通学区域変更した場合。

〈児童数・学級数の推移(シミュレーション)〉

※令和6年度の新1年生から対象とした場合

学校		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
日限山小	児童数	447	415	395	365	334	309	288
	学級数	14	13	13	13	12	12	12
南舞岡小	児童数	207	198	207	208	239	236	234
	学級数	<u>9</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>10</u>	<u>11</u>	<u>10</u>	<u>10</u>

〈効果と課題〉

- ・南舞岡小学校の児童数は増えるが、小規模校の状態は解消されない。

検討事例3

検討事例1に加えて、日限山小学校通学区域のうち、日限山三丁目、日限山四丁目及び上永谷町の一部の地域(対象区域②③)を、南舞岡小学校に通学区域変更した場合。※現在の日限山小学校通学区域のうち、下野庭小学校との特別調整通学区域の設定は継続。

〈児童数・学級数の推移(シミュレーション)〉

※令和6年度の新1年生から対象とした場合

学校		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
日限山小	児童数	447	415	381	336	290	258	224
	学級数	14	13	13	12	<u>10</u>	<u>10</u>	<u>9</u>
南舞岡小	児童数	207	198	221	237	281	284	294
	学級数	<u>9</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>10</u>	<u>11</u>	<u>11</u>	<u>11</u>

〈効果と課題〉

- ・南舞岡小学校の児童数は増えるが、小規模校の状態は解消されない。
- ・日限山小学校が令和8年度から小規模校となる。

検討事例4

日限山小学校と南舞岡小学校を統合する場合。

※現在の日限山小学校通学区域のうち、下野庭小学校との特別調整通学区域の設定は継続。

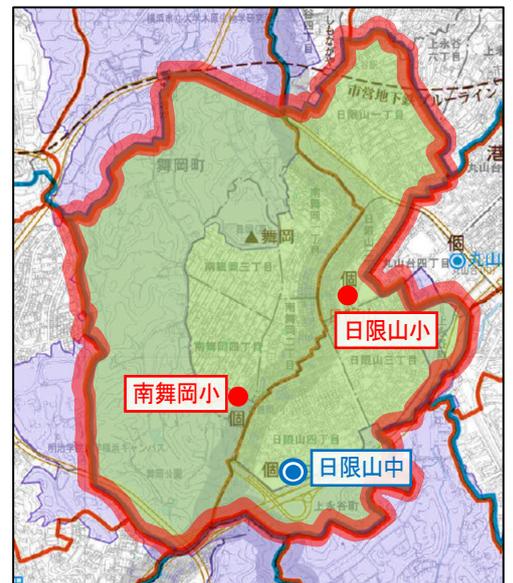
〈児童数・学級数の推移(シミュレーション)〉

※令和7年度に学校統合すると仮定した場合

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
児童数	—	—	—	574	574	546	524
学級数	—	—	—	18	18	18	18

〈効果と課題〉

- ・統合校の学校規模は適正規模となる。
- ・統合校の使用校舎や学校名の検討が必要となる。
- ・閉校する学校施設の後利用の検討が必要となる。
- ・学校統合に伴い、通学距離が長くなる地域が生じる。
- ・学校統合に向けて、児童等の交流などの準備期間が必要となる。



6 説明会以降に寄せられた意見及び質問等（凡例 ◆：意見・質問 ⇒：事務局からの回答）

説明会から第1回検討部会までに事務局に寄せられたご意見が6件ありました。

- ◆ 学校規模に関しては両校とも今のままでお願いします。統合には反対です。日限山小学校については今のままで何も問題はありませぬ。南舞岡小学校ですが、今一般学級は9学級、11学級以下は小規模校扱いとして問題になっていますが、実際のところ今年度一般学級児童数207名9学級、個別支援学級児童数27名4学級、合わせると234名13学級となります。この数は先日同校であった春風フェスティバルの様子を見てもグラウンドでちょうどよい人数でした。もしこれが統合して日限山小学校464名と合わせ700人程、プラス先生方、保護者、その密な状態を想像するとゾッとします。おそらく保護者の参観は無理でしょう。コロナを経験してわかったことの一つです。そもそも少子化で子供の数が全国で激減、それに合わせて学校も減らすのはナンセンスです。ゆったりした環境で伸び伸び教育活動できるチャンスであると切り替えるとよいと思います。学校を一つ無くすという事は地域社会にとっても大変な損失であると考えます。学校規模も一律にする必要はありません。いろいろな規模の学校を経験することで先生も成長できるからです。今後、話し合いによってより良い方向に進むよう願っています。
- ⇒ いただいたご意見については、検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。
- ◆ 学校規模の基準に、個別支援学級の児童数・学級数を入れないのはおかしいです。学校規模の基準を見直すべきです。あと一人一般学級児童が増えれば2クラスになるという状況で、周囲からの圧力を感じ個別支援学級を選択しづらくなります。また、他の地域の部会ニュースの中で「跡地計画については各局・区を含めて横断的に検討していく」とありますが、なぜ小規模校対策はそのように横浜市全体で横断的に検討することができないのですか。学区変更か学校統合だけの選択肢ではなく、そもそもこの地域の子どもを増やすためにはどのようにしたら良いかを検討してほしいです。
- ⇒ 検討部会には区役所や関係課も出席していますので、連携して検討を進めていきます。
- ◆ 南舞岡小学校は舞岡小学校と統合すれば良いと思います。日限山小学校と一緒にするなら日限山小学校を何も変えずなくさないでほしいです。日限山小学校の校舎を使い、校歌、校章、日限山のルール、すべて変えないでください。一緒にするのは反対です。
- ⇒ いただいたご意見については、検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。
- ◆ 学校規模の基準に、個別支援学級の児童数・学級数を入れないのはおかしいです。
- ⇒ 一般学級については、全学年でクラス替えの可否といった人間関係に配慮した学級編成ができるか、総合的な学習等における課題別の活動や特別活動等の充実が図れるかなど、児童数や学級数により改善できる課題が多い点に着目し、児童生徒の教育環境の改善を目的として、学校規模の適正基準を定めています。このように、一般学級では児童の数の要素により直接的に教育効果が変化するのに対し、個別支援学級では一人ひとりの障害の特性や状態に応じ、個別最適化した指導を行っていくため、数の要素により直接的に教育効果が変化するものではありません。そのため、一般学級と個別支援学級の数をそのまま足して学校規模の判断をする考え方をとっておりませぬ。
- ◆ 住み続けたい魅力的な街に小学校はどうしても必要です。高齢者も働きざかりの人達も子育て世代も障害がある方々も共に住み続けたいのです。子どもたちの数と学級数だけで学校の規模を考えるのではなく、子どもたちが通学する生活地域をしっかりと見て検討を進めてください。
- ⇒ いただいたご意見については、検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。
- ◆ 検討部会を公開で行ってほしいです。
- ⇒ 検討部会開催の際に、ご要望があった旨をお伝えします。

※お寄せいただいたご意見等は全て検討部会に報告しています。なお、紙面の都合上、要約して掲載しています。

7 検討部会における主な質問や発言（凡例 ☆：委員からの主な発言 ⇒：事務局からの説明）

- ⇒（学校規模の適正化に向けた検討事例について、事務局から説明しました。）
- ☆ 検討部会において、統合ではなく、それぞれ独立して学校を存続させてほしいという意見が出た場合、どの程度重きを置くのですか。
- ⇒ まずは通学区域の変更を検討し、それが難しい場合は学校統合について検討していただきます。検討部会の中で、学校統合はしないでほしいという意見はあるとは思いますが、その場合も小規模校の課題の解消に向けて、何らかの方策は行わなければならないと考えています。
- ☆ 先ほど事務局に寄せられた意見を聞き、もっと自分たちの子どもを大事にしてほしいという主張をされているのだと思います。少数意見を大事にするのが私たちの考え方だと思います。時代が変わってきて、少子高齢化で、いろいろな子どもがいる中で、今後、どのような結論になるか分かりませんが、その結論を尊重していただかなければ検討部会を開いている意味がないと思います。
- ☆ 日限山中学校、日限山小学校、南舞岡小学校は小中一貫教育推進ブロックとなっています。横浜市はこの小中一貫教育をどのくらい力を入れて進めているのですか。この地域は1中2小の学区なので、小中一貫教育も視野に入れて考えた方が合理的です。アプローチの中には通学区域の変更か統合しかないようですが、小中一貫教育も含めて考えた方が良いと思います。
- ⇒ 本市の小中一貫教育の取組は、基本的にはこの地域のように小中一貫教育推進ブロックを作り、その繋がった中で児童・生徒を育成しています。小学校と中学校を1つの学校として9年間教育する学校は義務教育学校と言い、現在3校あります。義務教育学校は先進的な取組事例となるため、担当部署のほうで教育効果等の検証をしっかりと行ったうえで、今後どのように進めていくか検討していくことになります。本検討部会では、学校規模の適正化という喫緊の課題を検討するために議論いただいております。義務教育学校の設置検討とは趣旨が異なると考えています。
- ☆ 検討事例を見ると、事例4にならざるを得ないように思います。通学区域を調整しても、最終的には事例4がベストなのではないかと思えます。
- ☆ 適正な学校規模の考え方というものがあつ、これに基づいて議論が進められていると思うのですが、この考え方は、いつぐらいに、どのような背景で策定されたのですか。
- ⇒ 平成30年度に「横浜市立小・中学校の通学区域と学校規模に関する基本方針」が従前のものから改定されました。改定にあたっては、少子高齢化が進展していく背景の中で、学識経験者や学校長、保護者代表、地域代表の方々に入つていただき議論を重ねています。国の指針では、小学校は12学級から18学級を適正規模としており、この指針に沿い、かつ、横浜市という大都市の状況も加味して、本市では小学校は12学級から24学級を適正規模としています。
- ☆ 小規模校の課題に「人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られる」とありますが、子どもの人間性は学校だけではなく家庭や公園で遊ぶ時など、総合的なところで形成されていくと思つます。また、「子ども同士の間関係が固定化しやすい」とありますが、サロンにはたくさんの子どものいますが人間関係は固定化しています。
- ⇒ 1学年1学級となつた場合、例えば、クラスで人間関係がこじれてしまった時に、クラス替えができず、物理的に距離を置くことができないことが課題だと認識しており、2学級あることで、課題が解消できる場合があると思つます。様々な事例で人間関係が固定化したり、仲良しのグループができたりすることは当然あると思つますが、小学校での6年間とは異なると思つています。
- ☆ 南舞岡小学校を選ぶ保護者は、小規模校だからこそ細やかに見てくれるのが良いと思つている方が多いと思つるので、数の理論だけで位置付けられると、両校の良い面や個性がなくなり、均一化された学校になってしまうことが心配なのではないかと思つます。また、日限山中学校も現在生徒数が300人を切つています。この地域は全体的に先細りになっているのであちこちで統合をしていくしかなくなるのではないかと思つます。日限山小学校の児童数も減つてきているので、数だけではなく、そこを慎重に検討する必要があると思つます。
- ☆ 横浜市の子童数全体が減少している中、南舞岡小学校の子童数の減少割合はそこまで変わつていないのではないかという印象を受けています。（市街化調整区域の関係で）住宅地が3分の1ほどしかなく、マンション等を建てられる地域でもないので、今後も人口がすごく増えることはないことは分かつていた地域だと思つます。

- ☆ 南舞岡小学校の保護者は、小規模校の利点を強く感じてお子さんを通わせている方が非常に多いと感じています。小規模校の課題に「子ども同士の間関係が固定化しやすい」とありますが、統合した場合は小学校から中学校まで9年間同じコミュニティになるという懸念もあります。小学校が2校あることで、中学生になったら違うメンバーが入り、スパイスが加わると思います。規模適正化という話もありますが、どの小学校も同じ規模にするのではなく、南舞岡の自然と小規模の利点を考えて、小規模校があっても良いのではないかと思います。小規模校での課題を感じているお子さんであれば、東戸塚小学校のような地域を選んで住んだり、私立学校に通ったり、いろいろ選択肢はあると思います。
- ☆ 通学区域の変更を考えるにあたって、南舞岡小学校、日限山小学校の2校だけではなく、周辺の丸山台小学校や永野小学校や他の区域の小学校など、もっと大きく考えていく必要があると感じます。
⇒ 次回の検討部会に向けて、シミュレーションを作成してお持ちします。
- ☆ (日限山小学区に) NTT 社宅が9棟ありますが、売却されて賃貸マンションが建つのではないかと噂があります。もしそのようなものが建ったら、それなりの数の子どもが増えると思います。それはこのシミュレーションには入っていないのですか。
⇒ 義務教育人口推計は、住民基本台帳を基に作成しています。また、住宅開発計画があれば、子どもが増えることが見込まれますので、情報を細かく確認し、推計に反映しています。住宅の戸数や間取り等、具体的に把握したうえで取り込んでいるため、将来的に建ちそうという予測で反映させることは難しいです。
- ☆ 個別支援学級の児童数は学校規模の基準には入らないということで、その理由も理解はしているのですが、南舞岡小学校と日限山小学校の個別支援学級の人数を合わせると40名を超えます。大きな個別支援学級で良かった話は1つも聞いたことがありません。今それぞれの学校で、これだけの人数を先生方が本当に良く見てくださっていると思いますが、一般学級に入ればなんとかできるという子たちではないと思います。小学校のうちに少しでも手厚く、一人ひとりの成長にあった手助けや支援をしてもらい、安定した小学校生活を送ってほしいと思います。だからと言って先生をたくさん増やせば良いと思っているわけではなく、そういう意味では個別支援学級の人数を考えると一概に考慮に入れないのではなく、そこも含めて検討していただきたいです。
- ☆ 南舞岡小学校の個別支援学級はとても良いという話を保護者から聞いています。その方たちの不安としては、もしも一緒になった場合に人数が増える、環境が変わる、スタイルもいろいろなことが変わっていくのではないかとこの話をお聞きしました。
- ☆ 南舞岡小学校の個別支援学級に通わせたくて、日限山小学校の学区から越境している方もいるので、不安になるというのはすごく分かります。今のところ、日限山小学校の保護者からご意見やご要望はあまり来ていませんが、検討事例を見ると日限山小学校の学区の一部を南舞岡小学校に変更となっていて、この検討事例が現実味を帯びてくると、日限山小学校の保護者からも声が上がり出すのではないかと思います。
- ☆ 今回議論した内容を持ち帰り、次回の検討部会で各団体からのご意見を報告していただきますようお願いいたします。

◆**第2回検討部会について** ※会議は非公開とすることを決定しました。

日時：令和4年12月8日(木)10時00分から 会場：日限山地域ケアプラザ 1階多目的ホール1

検討内容：通学区域と学校規模適正化等

◆**「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会の検討経過等について**

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからもご覧いただけます。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/kounantotsuka.html>



◆**事務局(お問い合わせ先)**

皆様からのご意見やご質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。

横浜市教育委員会事務局学校計画課

Eメール：ky-kounan2022@city.yokohama.jp

TEL：045-671-3252

FAX：045-651-1417

